

マークIIとともに、
より安全・快適なカーライフを
お楽しみいただくために



必 読

これだけは知っておきましょう。

マークII独自の装備、取り扱い方法もあります。

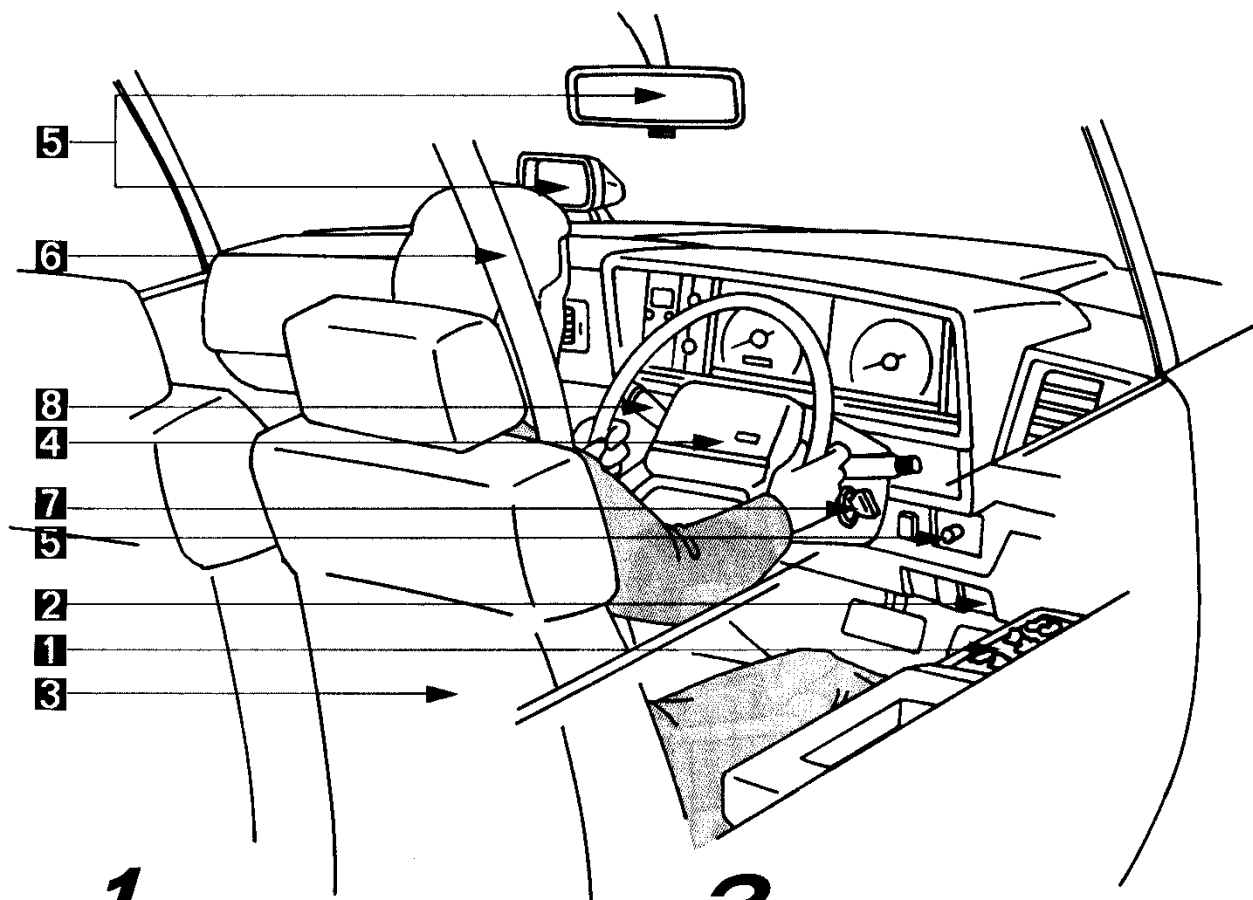
ドライバーとしての義務、マナーを大切に、以下の数ページを
「安全・快適走行」のためのチェック・リストとして
ぜひともご活用ください。

マークIIの基本操作要領

(詳しくは、本文をご参照ください。)

まずは、あなたの指定席「ドライバー・シート」に腰をおろして…

必読 / これだけは知っておきましょう。



1 ドア、ウインドウ (20ページ)

走行中は必ずドアをロックしましょう。

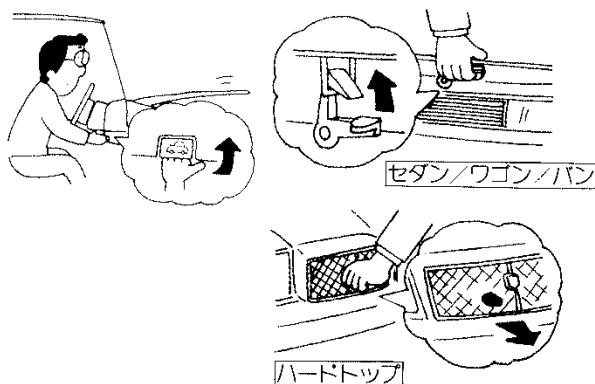
L Gには電磁式ドア・ロックとパワー(電動)・ウインドウが装備されています。また、バンのGLとワゴンのバック・ドアは電磁式です。



走行中は必ずドアをロックしましょう。

2 ボンネット(運行前点検)(24ページ)

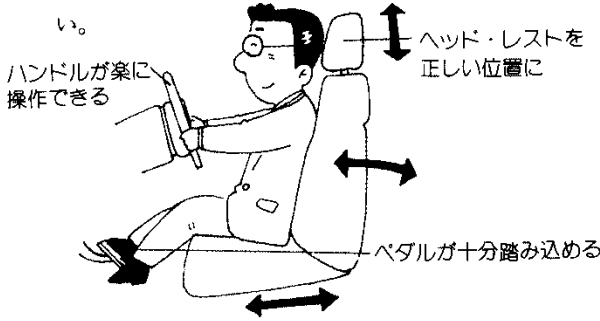
走行前の「運行前点検」は法律で義務づけられています。「整備手帳」に記載されている「運行前点検」要領にしたがって点検してください。



3 シート調整(26ページ)

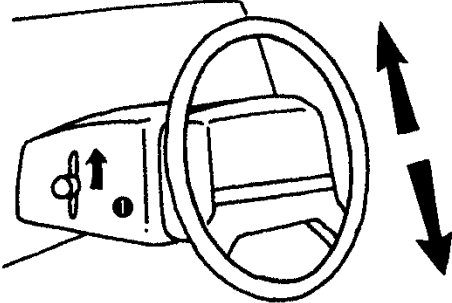
車型、グレードによって調整の方法は少しずつ違って
いますので、30ページ以降を参照のうえ、

- ①ペダルが十分踏み込める
- ②ハンドルが楽に操作できる
- ③ヘッド・レストが耳の後方で、頭との間隔か
にぎりこぶし以下である状態に、走行前に調整して
ください。



4 チルト・ステアリング(31ページ)

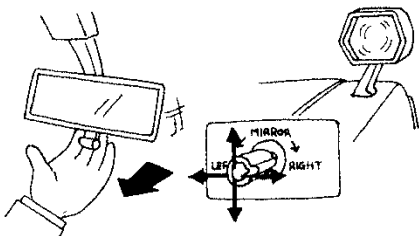
ハンドルは、角度の調整ができます。(DX、STD車
およびセミ・セパレート・シート車を除く) ハンドル
操作がもっとも楽な位置に調整してください。



- ①のツマミを持ち上げている間、ハンドル位置を上下にかえられます。

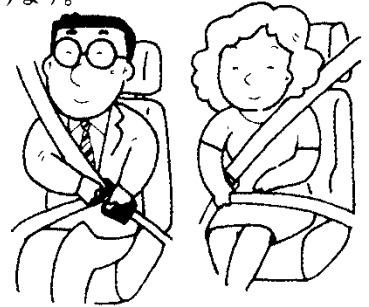
5 ミラー調整(31ページ)

インナー(ルーム)・ミラーは防眩式です。走行前に後
方視野が十分確認できる位置に調整し、後続車のヘッ
ドランプがまぶしいときには、レバーを手前に引いて
ください。また、DX、STD以外はフェンダー・ミラ
ーが電動式です。



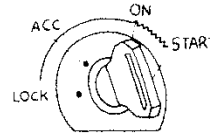
6 シート・ベルト(29ページ)

シート・ベルトは必ず装着してください。前席は「E.
L.R.付き3点式(緊急時固定式)シート・ベルト」、後席
は「長さ調整式(2点式)シート・ベルト」です。装着
のときは、腰部ベルトを必ず腰骨の位置に装着して
ください。妊婦、疾患のあるかたおよびお子さまの装
着は危険な場合があります。

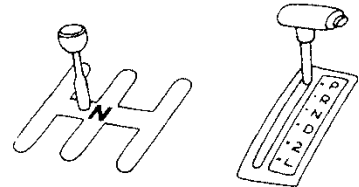


7 エンジン始動(35ページ)

エンジン・スイッチの各位置は図のとおりです。

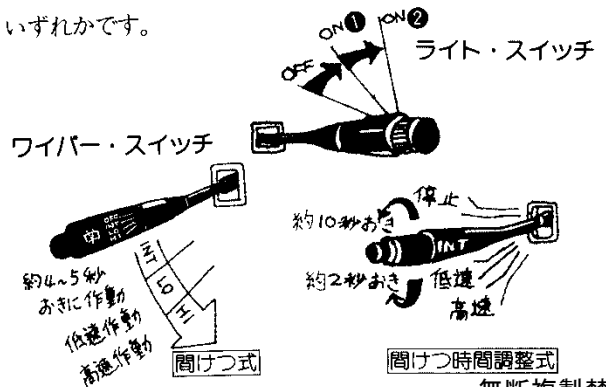


- ①エンジンを始動する前にパーキング(駐車)・ブレーキをかけるか、ブレーキを踏み続ける。
- ②マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車はN(ニュートラル)、オートマチック・トランスミッション車はP(パーキング)にはまっていることを確認してください。



8 ライト、ワイパー・スイッチ(44ページ)

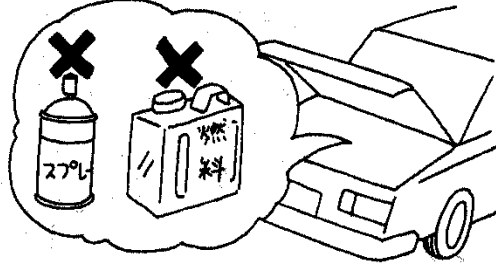
ライト・スイッチは、ON①でスモール・ランプ(車幅
灯)、ON②でヘッドランプ(前照灯)がつかます。
ワイパーは、「間けつ式」か「間けつ時間調整式」かの、
いずれかです。



「準備よし」までの Check Point

積んでいないか？

危険物は持ち込み禁止です。



車内、トランク内および荷室に燃料がはいった容器やスプレー缶を持ち込まないでください。

蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

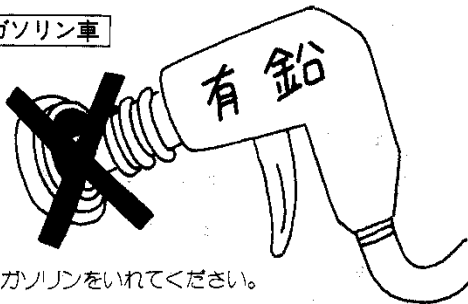
手荷物に「高さ制限」あり。

荷室の手荷物は後席背もたれの高さをこえないように積み、確実に固定してください。後方、側面の確認ができなくなり、急ブレーキで荷物がとび出すなど危険です。

いれていないか？

有鉛ガソリンお断りです。

☞ ガソリン車



無鉛ガソリンをいれてください。

ガソリンの補給は、必ず無鉛ガソリンにしてください。有鉛ガソリンやトヨタ純正品以外のガソリン添加剤を使用すると、触媒装置を損ないます。

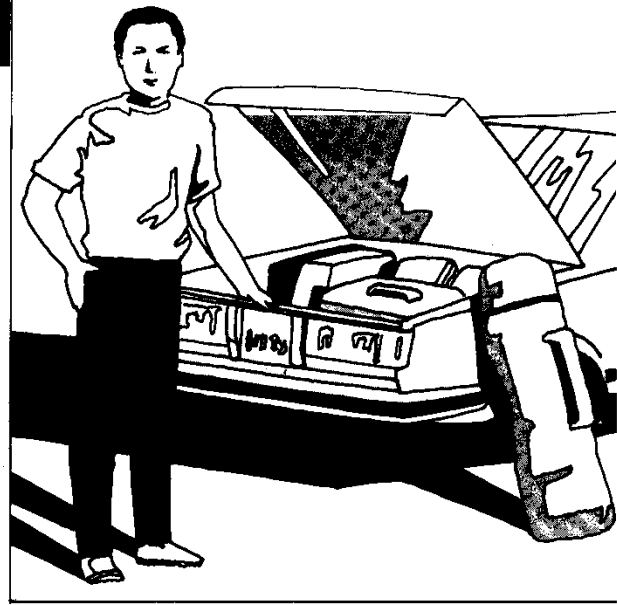
☞ ディーゼル車

必ず軽油を補給してください。

☞ LPG車

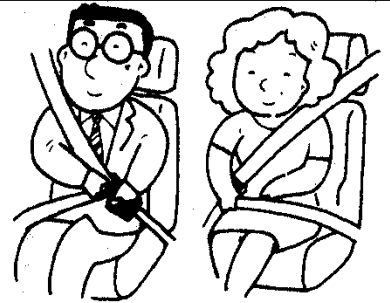
LPガスを補給してください。

LPガスの充てんはスタンドの係員にまかせてください。LPガスの充てんについては110ページを参照してください。



忘れていないか？

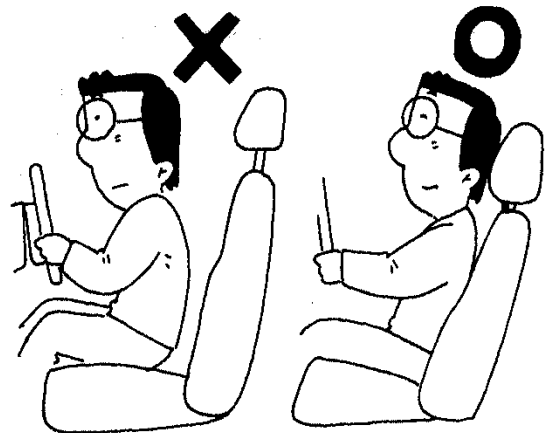
シート・ベルトは必着です。



シート・ベルトは必ず装着してください。

正しい装着方法はP34ページを参照してください。

ヘッド・レストは高すぎず、低すぎず、
頭との間はあけすぎず。



高さは耳の後方になるように。頭との間を、にぎりこぶし以上あけないように調節してください。

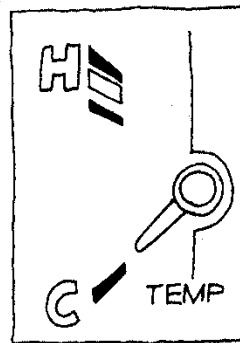
必読！これだけは知っておきましょう。

始動、さあ出発！までの Check Point

必読！これだけは知っておきましょう。

適切な暖機をしたか？

適切な暖機運転を必ず行ってください。



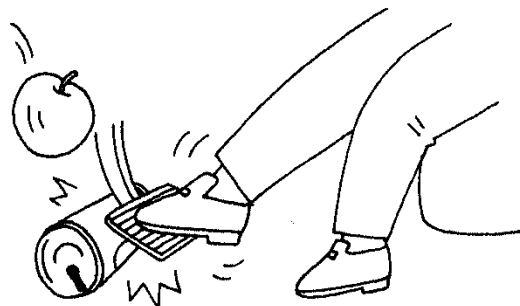
暖機運転は水温計の針が動き出す程度で十分です。長すぎると燃料のムダになります。適切な暖機運転をしてください。



1. 暖機運転中はもちろん、エンジンが回っているときは車から離れないでください。
2. 暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。始動後約30秒（外気温20℃のとき）で、アクセル・ペダルを軽く踏んで足を離し回転を下げてください。（EFI、ディーゼル車を除く）

こるげ落ちないか？

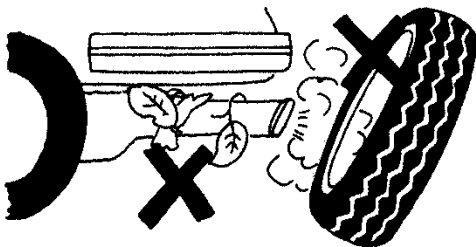
運転席付近にモノを置くと危険です。



フロアにころがってブレーキ・ペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなるなど危険な場合があります。

確認したか？

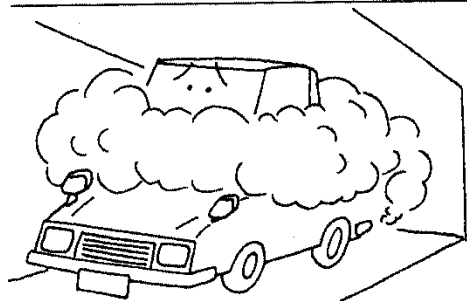
車両後方、排気管にからんだ可燃物は危険です。



始動前に車両後方に燃えやすいものがないか、排気管に枯れ草などが巻きついていないか確かめてください。

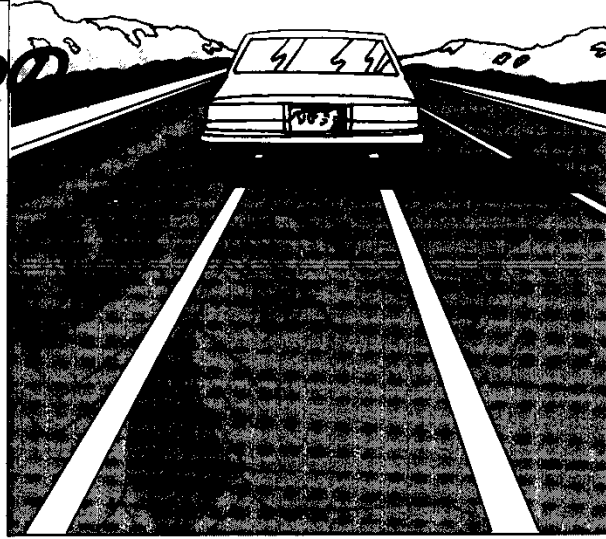
危険はないか？

密閉した車庫内でエンジンをかけたままにしない。



ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、必ず換気をよくしてください。

「安全・快適走行」のための Check Point

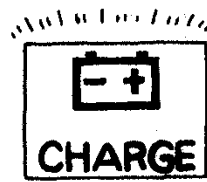


必読 / これだけは知っておきましょう。

こんなときは要注意!

次のような警告灯、計器の警告を無視して運転を続けると、触媒装置を焼損する恐れがあります。

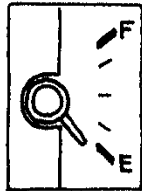
排気温警告灯または充電警告灯が点灯したら、安全な場所へ停止。



触媒装置の温度が異常に高くなっています。

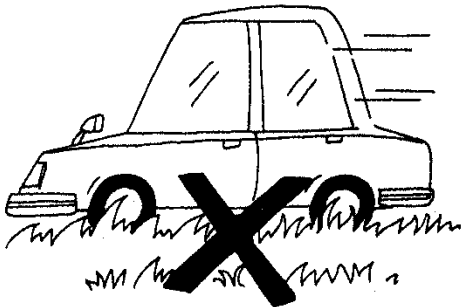
必ず63ページの「排気温警告灯」または61ページの、「充電警告灯」の項目を参照して、点灯時の処置を行ってください。〈ディーゼル車を除く〉

燃料計がE以下になる前に補給。



走らないで!

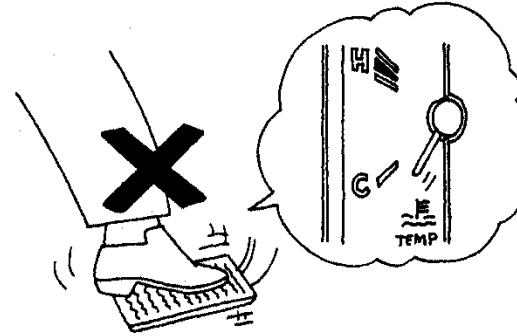
燃えやすいものの上は走行拒否。



枯れ草などの燃えやすいもののある場所や、フロア下面に枯れ草などを巻き込む恐れのある場所での走行はさけてください。

あおらないで!

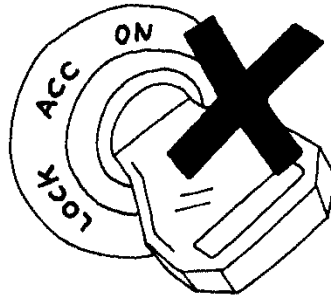
暖機不足の発進時、極端にアクセルペダルをあおらないでください。



未燃焼ガスが触媒装置に流れ、触媒装置を焼損する恐れがあります。〈ディーゼル車を除く〉

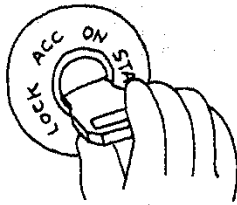
切らないで!

走行中はもちろん、高回転直後でもエンジン・スイッチを切らないでください



触媒装置を焼損する恐れがあります。〈ディーゼル車を除く〉

走行中、エンジン・スイッチを
ACC、LOCK位置にするのは
厳禁です。

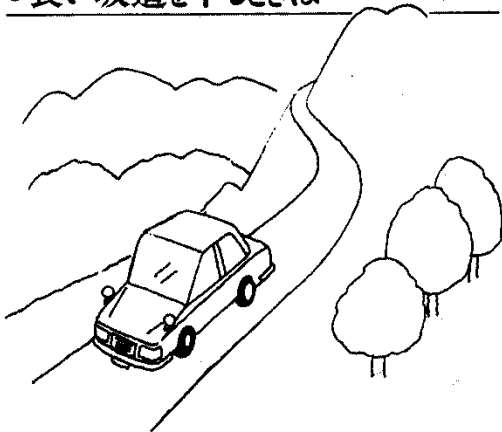


走行中エンジン・スイッチをACCまたはLOCKの位置にすると、

1. ブレーキの効きが悪くなります。
2. パワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)付き車はパワー装置が作用しないため、ハンドル操作が非常に重くなります。
3. LOCK位置にするとキーが抜けることがあり、キーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。
4. 各種警告灯が作用しなくなり危険です。

必ず知っておきたいドライブ・テクニック

●長い坂道を下るときは



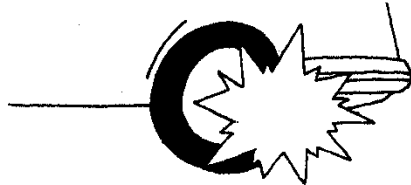
フット・ブレーキと
エンジン・ブレーキ*1を併用。

フット・ブレーキを踏み続けると「ベーパー・ロック」*2や「フェード現象」*3を起こし、ブレーキの効きが悪くなることもあり危険です。ただし、ぬれた路面または水雪路での急激なエンジン・ブレーキの使用はさけてください。スリップの危険があります。

- *1 「エンジン・ブレーキ」とは、走行中アクセル・ペダルから足を離したときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジン・ブレーキはよく効きます。
- *2 「ベーパー・ロック」とは、ブレーキ液が加熱されて、沸騰し泡が発生し、ブレーキ・ペダルを踏み込んで、気泡を圧縮するだけで、ブレーキ力とはならない現象。
- *3 「フェード」とは、ブレーキの摩擦面が、加熱されると摩擦力が減るので、同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象。

●高速走行中に

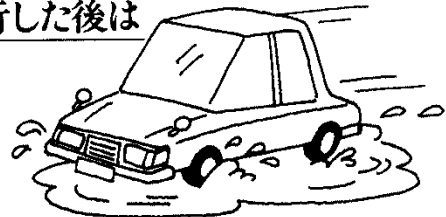
パンクやバースト(破裂)したときは



ハンドルをしっかりとって、
徐々にブレーキをかけてスピードを
落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

●洗車後や深い水たまりを 走行した後は



ブレーキ・ペダルを軽く踏んで
効き具合を確認してください。

深い水たまりを走行した後、あるいは洗車後は、ブレーキが効かなくなったり、効きが悪くなったりする恐れがあります。

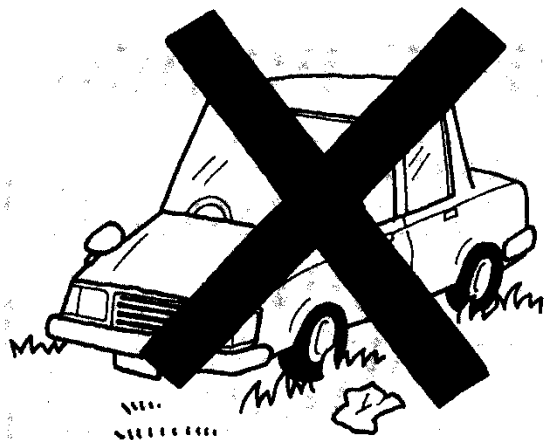
ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に十分注意してブレーキ・ペダルを軽く踏んで、完全に効く状態になるまで低速で走行し、ブレーキのしめりをかわかしてください。

必読！これだけは知っておきましょう。

駐停車時の Check Point

必ず確認「可燃物なし」

枯れ草、わら、紙、布、樹脂、油、
古タイヤなど要注意。

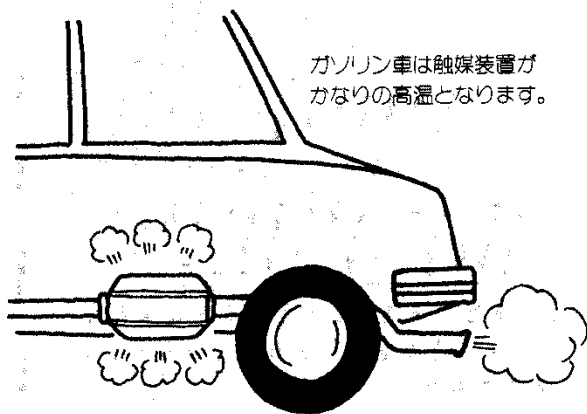


枯れ草等可燃物の付近や上に駐車しないでください。

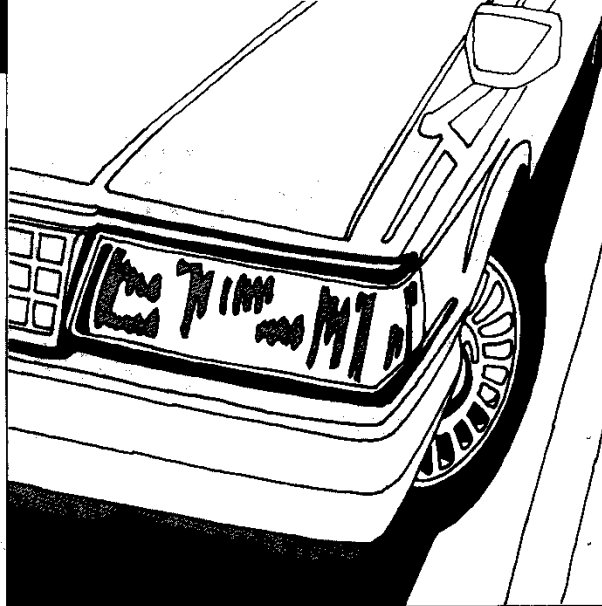


ちょっと一言

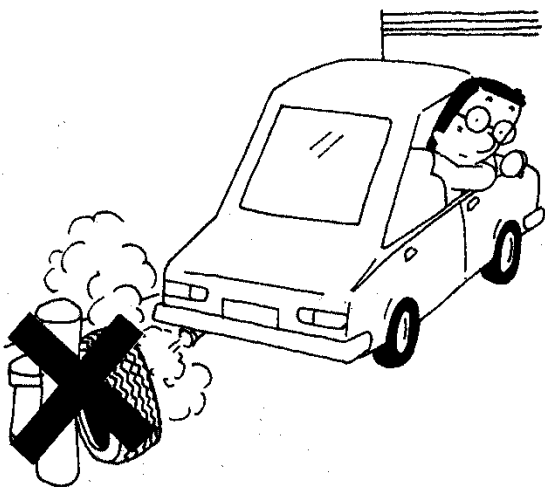
1. 走行後の排気管は高い温度になりますので、燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。
2. エンジンを空ふかししたり、高回転を長く続けたりした場合には、排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。



ガソリン車は触媒装置が
かなりの高温となります。



車庫内停車は後方確認を第一に。



あらかじめ、車両後方の確認を十分に行って、燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



ちょっと一言

1. 排気ガスは、場合によっては高い温度になるので、万一の場合わらなど燃えやすいものに着火する恐れがあります。
2. 木材、ベニヤ板などが車両後方にある場合は、車両後端を30cm以上離して止めてください。
すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、万一の場合着火する危険があります。

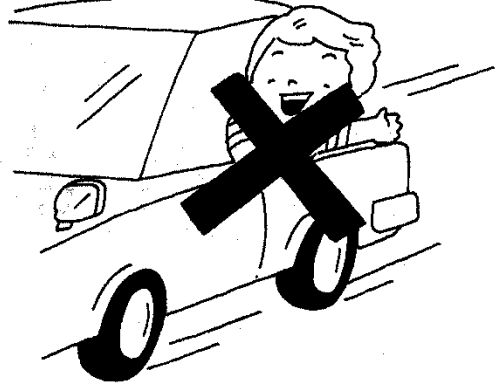
お子さまをのせるときの Check Point

必読！これだけは知っておきましょう。



危険です。迷惑です。

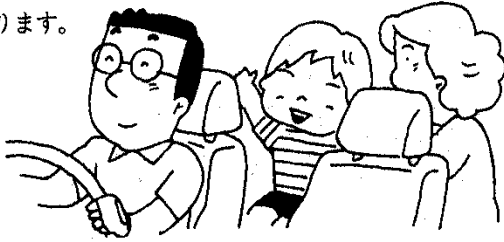
窓や電動サン・ルーフから、手や顔
などを出させない。



お子さま専用席は？

なるべく大人と一緒にリヤ・シート。

フロント・シートだと万一のとき放り出される心配が
あります。

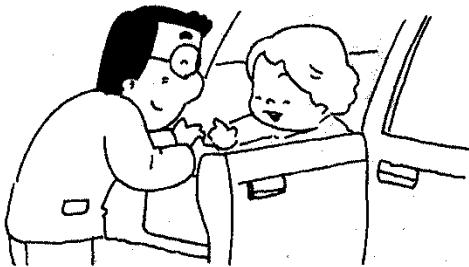


助手席ではお子さまの動作が気になり、安全運転のさ
またげになります。

お子さまが、運転装置、装備などにさわると思いかげ
ない事故が起きる恐れがあります。

車から離れるときは？

お子さまは必ず一緒に連れて出る。



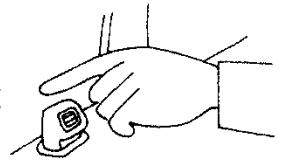
お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの事故
が起きる恐れがあります。また炎天下での車内はたい
へん高温となり危険です。

開閉、確認大人の仕事！

ドアは確実に閉じ、必ず施錠。

あなたが確実に施錠してあげましょう。

また、お子さまをリヤ・シ
ートにのせるときはチャイ
ルド・プロテクターをご利
用ください。□21ページを
参照してください。



ドア、ウインドウの開閉は
必ず大人がしましょう。



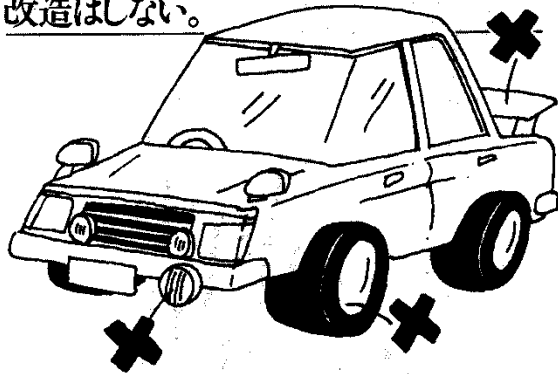
お子さまが手をはさむ場合があります、危険です。

また、パワー（電動）・ウインドウのスイッチは必ず大
人が操作してください。お子さまがウインドウ・スイ
ッチをいたずらして、手や首をはさむと危険です。お
子さまをのせるときは必ずウインドウ・ロック・スイ
ッチ（23ページ参照）をご使用ください。

お車をダメにしないための Check Point

触れないで!

走行装置など重要個所の
改造はしない。



車の性能や機能に適さない部品を装着すると、思いがけない事故が発生する場合があります。

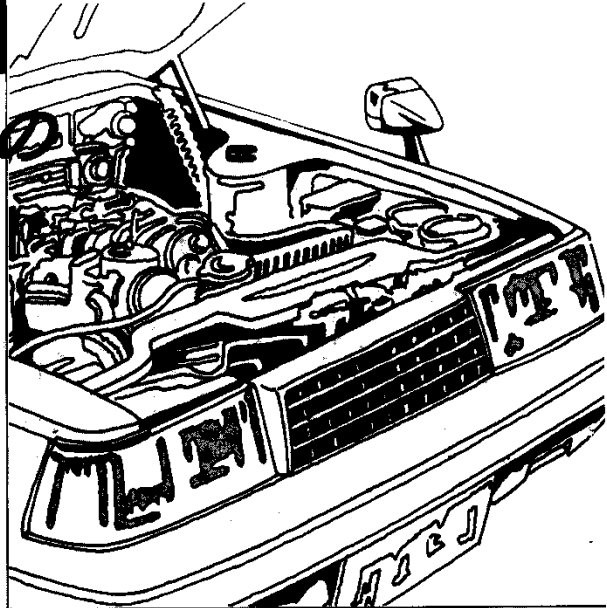
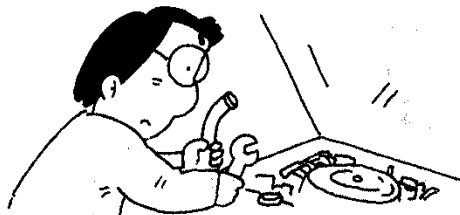


ちよつと一言

1. トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になることがあります。アクセサリを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
2. 無線装置を取りつけると、電子制御部品に悪影響をおよぼし、故障や制御に異常をきたすことがあります。取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

自己流のエンジン調整、 部品の取りはずしは行わない。

エンジン調整はトヨタ販売店におまかせください。



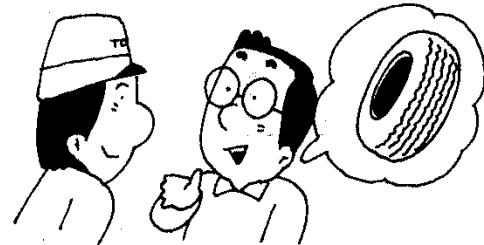
純正に徹して!

ブレーキ液、クラッチ液が
不足しているときは。



1. 液の減りが著しいときは早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
2. 応急処置として補給するときは、タンク内にゴミがはいらないように十分注意して、トヨタ純正ブレーキ・フルード2400Gを使用してください。
3. ブレーキ液に粗悪品を使用したり、他の銘柄品を混用するとブレーキ系統に悪影響をあたえ危険です。

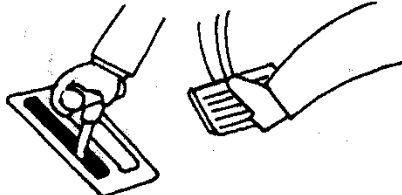
タイヤを新品と交換するときは。



1. トヨタ販売店で相談してください。
2. 異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは車の安全走行に悪い影響をおよぼしますので絶対にさけてください。

おっと危ない気をつけて！

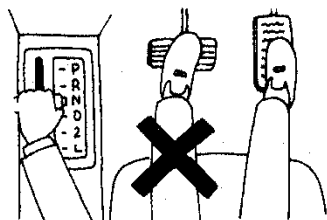
- 発進時オートマチック車のシフト・チェンジは必ずブレーキを踏んだまま！！



エンジン回転が高いとき(始動直後、エア・コン作動時)は、ブレーキ・ペダルを十分に踏んでいないと車が動き出すことがあります。

シフト位置を確かめ、まわりの安全を確認してから発進します。

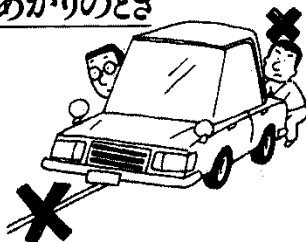
- オートマチック・トランスミッション車の場合、ブレーキ操作は必ず



右足で行ってください。

右足をアクセル・ペダルにのせたまま、左足でブレーキ操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキ・パッドの摩耗を早める恐れがあります。

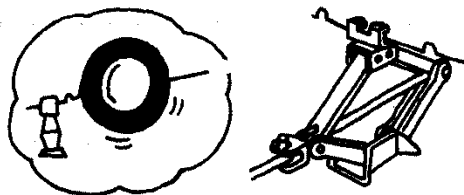
- バッテリーあがりのとき



車を押したり、けん引したりしてエンジン始動をしないでください。

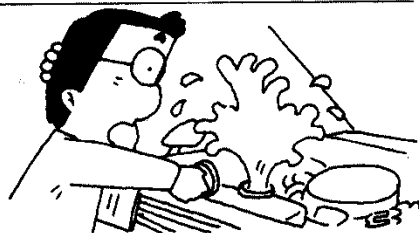
触媒装置の温度が異常に高くなり焼損する恐れがあります。□92ページの「バッテリーあがりの処置」の項目を参照してください。

- ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。



またパーキング(駐車)・ブレーキ、輪止め(搭載工具に含まれています)を忘れないようにしてください。□85ページの「ジャッキの使い方」の項目を参照してください。

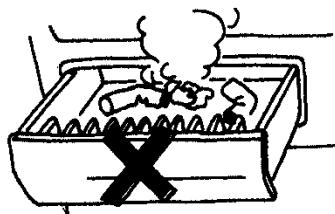
- ラジエーター・キャップを



水温が高いとき(キャップが熱いとき)はずさないでください。

蒸気や熱湯が吹き出し、危険です。

- 灰皿を使用したあとは必ず閉めてください。



開けたままにしておくと、タバコの火が他の吸いながらに燃えひろがり、火災になる恐れがあります。



ちよつと一言

1. 灰皿には吸いながらをためすぎないでください。
2. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。
3. マッチ、タバコの火は消してから灰皿の中へいれてください。

必読！これだけは知っておきましょう。

ターボ車の取り扱いCheck Point

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンから、より大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。毎分10万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジン・オイルによってなされています。

したがって、定められたエンジン・オイル交換と高速走行、登坂走行後のアイドル運転をお守りいただかないと、劣化したエンジン・オイルによりターボ軸受部の固着、異音の発生などを起こすことがあります。

ターボ機能を十分発揮させるためにも、下記事項を必ず守ってください。

●エンジン・オイル、 オイル・フィルターの交換は 必ず時期を守って

1. 交換は必ず下記の時期に行ってください。

●エンジン・オイル

5,000kmごとに交換、ただし期間が6カ月をこる場合は、その時点で交換してください。

5000km

●オイル・フィルター

10,000kmごとに交換

2. エンジン・オイルはAPI基準SF、SE、SD相当（ディーゼル車はCD、CC相当）で粘度分類10W-30以上のオイルを使用してください。

次のトヨタ純正キャスル・モーター・オイルをおすすめします。

〈ガソリン車〉

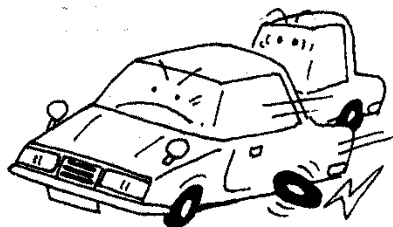
クリーンターボ(SF)

〈ディーゼル車〉

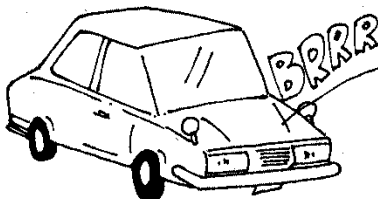
ディーゼラックス・スペシャルⅡ(CD)

詳しくは「整備手帳」をご覧ください。

●エンジン始動直後の空ふかし 急加速はしないでください。



●高速走行、登坂走行直後に エンジンを停止するときは、 正しいアイドル運転をしてください。



停止直前の空ふかしはおやめください。高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、下表にしたがって必ずアイドル運転をしてください。

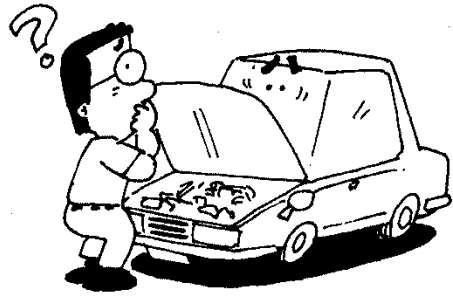
エンジン停止前のアイドル運転時間

運 転 状 況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約 80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行 およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分

●マフラー、プラグなどには 指定以外の部品を 使わないでください。

こんなときは……………

下の目次は、緊急時の処置法を知るための索引としてもご利用いただけますが、「こんなとき……」どうすべきか、すぐ思いつかない項目があれば、あらかじめ指示されたページを参考に、対処方法を十分理解しておいてください。トラブルに巻き込まれたら、あわてないことが大切です。



必読！これだけは知っておきましょう。

●朝エンジンがかからないときは……………	92
●走行中エンジンが止まったときは……………	90
●バッテリーがあがったときは……………	92
●オーバーヒートしたときは……………	92
●警告灯が点灯したときは……………	60
●ランプ類が点灯しないときは（ヒューズ切れ・電球切れ）……………	94
●踏切で故障したときは……………	90
●高速道路で故障したときは……………	90
●一般道路で故障したときは……………	90
●発炎筒を使うときは……………	91
●床下に強い衝撃を受けたときは……………	90
●パンクしたときは……………	85
●けん引するとき、してもらうときは……………	93
●タイヤ・チェーンをつけるときは……………	106
●事故・故障のときの修理連絡先は……………	「整備手帳」参照

こんな装備のお車にのられているかたは……………

オートマチック・トランスミッション車をはじめ、次のような装備をつけられたかたは、誤った操作で事故を起こすことのないよう、正しい取り扱い方法を十分身につけておいてください。



●電動サン・ルーフをつけられたかたは……………	28
●オートマチック・トランスミッション車にのられているかたは……………	45
●エンジン・ヒーターをつけられたかたは……………	107
●LPG車にのられているかたは……………	110